

第2回白山市教育委員会会議録

1 日 時 平成30年2月27日(火) 午後4時30分

2 場 所 白山市役所本庁舎4階 402会議室

3 出席者

教育長	松井 毅
教育長職務代理者	橋本 外志
教育委員	水洞 満子
教育委員	北田 朋幸
教育委員	竹内千恵子
教育委員	小寺 正彦

4 事務局

教育部長	松田 辰夫
次長兼生涯学習課長	真砂 光子
教育総務課長	高橋 由知
学校教育課長	古川 孝志
文化財保護課長	徳井 孝一
スポーツ課長	東 俊昭
子ども相談室長	新谷 薫
松任図書館長	中村 久昭
松任図書館図書サービス課長	大宮 英幸
鶴来図書館長	中村 泰広
かわち図書館長	今村 賢次
白山恐竜パーク白峰館長	西本 隆

書記職氏名

教育総務課課長補佐	山田 純一
教育総務課庶務係長	河奥 裕子

5 傍聴人 なし

6 案件

議案第2号 平成29年度白山市一般会計補正予算(教育費)について

議案第3号 平成30年度白山市一般会計予算(教育費)について

議案第4号 「松任文化会館改修工事(建築)請負契約について」の議決の一部変更

ついて

議案第5号 「松任文化会館改修工事（空調設備）請負契約について」の議決の一部変更について

議案第6号 「松任文化会館改修工事（給排水衛生設備）請負契約について」の議決の一部変更について

議案第7号 白山市立公民館条例の一部を改正する条例について

議案第8号 白山市体育施設及び有料公園施設条例の一部を改正する条例について

7 議事の経過等 以下のとおり

松井教育長の開議あいさつに続いて、議事録署名委員として北田委員を指名した。

諸般の報告について、教育部長より教育長が出席された行事の主な概要について報告した。

■主な行事の概要（前回1月25日の教育委員会以降の報告）

- ・ 1月28日（日）
第13回白山市民体育大会スキー競技会開会式（白峰アルペン競技場）
- ・ 1月31日（水）
平昌オリンピック出場選手激励会（特別応接室）
- ・ 2月14日（水）
感性のびのび俳句大会表彰式（市民交流センター1階）
市内全小中学校児童生徒の作品一万句弱
「特選」入賞者 計18名
- ・ 2月17日（土）～18日（日）
第70回石川県民体育大会冬季大会スキー競技場
（白峰アルペン競技場、クロスカントリー競技場）
白山市85名出場 【結果】総合優勝
- ・ 2月20日（火）
叙位叙勲伝達式（特別応接室）
- ・ 2月22日（木）
叙位伝達式（自宅）
- ・ 2月26日（月）
第4回ライン賞表彰式（市民交流センター4階）
市内小学校4年生～中学3年生が対象
最優秀賞1点、優秀賞2点、選考委員特別賞2点

本日の議題に入り、議案第2号、議案第3号、議案第4号、議案第5号、議案第6号、議案第7号、議案第8号について説明、質疑応答が行われ、原案どおり承認し、閉会した。

【案件の説明および諸報告について】

案件について、事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

【主な質疑・応答の内容について】

○議案第3号 平成30年度白山市一般会計予算（教育費）について

（水洞委員）

研究指定校事業について、ずっと180万円でしたが、29年度に168万円になり、30年度は60万円です。指定校が昨年度までは「新」というのがあったのですが、平成30年度は「新」がないということですが、どういうことですか。

（古川学校教育課長）

研究指定校については、これまで2年指定で行ってきたわけです。今年度指定した学校については、来年度も指定をしていただくということで、石川小、朝日小と鳥越中の3校には20万円ずつ研究費用が付きました。来年度からの新しい指定校については、予算が付かなかったので、研究指定校については、どんなあり方がいいのか来年1年間かけて検討していきたいと思っています。

（橋本教育長職務代理者）

「健康」「笑顔」「元気」の3つのプロジェクトについて、大変わかりやすい説明でした。この3つのプロジェクト事業を推進していくうえで、「新」というのは新しく実施する事業だということはわかります。「臨」というのは、平成30年度だけの事業なのかどうか。「拡」は従来ある事業をさらに広げて実施すると読み取ったのですが。

（松田教育部長）

「新」というのは、全く今までなかった新しい事業であります。「臨」というのは、その時だけの臨時的に、その年度だけに対応した事業という考え方です。例えば、松任文化会館ですと改造工事をしてしまえば終わってしまうという、その時の臨時経費という考え方です。「拡」というのは、既成にあったものの予算を拡大する、あるいは事業の内容・ボリュームを増やすという意味の「拡」です。

（水洞委員）

毎年聞いていますが、特別支援教育支援員配置事業ですが、平成25年度は32名だったと思います。それが毎年少しずつ増えて行って、平成30年度は50名です。学校訪問をしていると、退職した先生が特別支援員をされている方もいれば、そうでない人もいます。増えることはすごくいいと思うのですが、どういうふうに「質」という意味で、ちゃんとした人が集まるのかどうかをお聞きしたいと思います。

（古川学校教育課長）

やはり人数が増えてくると質の問題も出てくると思うので、年2回の研修をさせていた

だいて、その研修には支援員の方は必ず参加するという事になっています。外部の講師などを入れながら、講演活動を行ったり、少し考える作業を行ったりしています。ただ、元教員の人もいれば、全く教育分野でなかった人もいます。採用をする時には、面接を行って採用をして、学校内で高めてもらっているのが現状ではあります。

(水洞委員)

どこまで増やしたら、ちゃんとなるのか。本当に、毎年増えることはいいことです。

(古川学校教育課長)

人数がどこまでいったら十分なのかということはあると思いますが、現場からの要望でいくと、「これでも足りない」と、「もっと欲しい」というのが現場の校長からの要望ではあります。子どもの数は減っているのに、校長先生が考える対象者数は増える一方で、毎年要望数も増えているのが現状であります。

(水洞委員)

この増えていくことが、働き方改革にもつながるとアピールされているのですか。これは関係がないのですか。

(古川学校教育課長)

支援員が増えていくということは、いろいろな発達障害のある子どもらに寄り添ってくれる先生、補助員がいるということで、先生方の負担軽減にはなっていると思っています。

(水洞委員)

成人式の話ですが、この前、成人式に出席した成人の親御さんから、「アルバムがすごく良かった」と強く言ってくれと言われました。今年、成人を迎えた子どもの上に4つ年上の子がいるのですが、その時に比べたら、「すごくよかった」と。その予算は、入っているのですよね。

(真砂次長兼生涯学習課長)

入っております。うれしいご意見、ありがとうございます。

(松井教育長)

アルバムというのは、前は、鶴来は違っていたのですか。

(水洞委員)

鶴来は、例えば北辰中学校男子だけの1枚の写真だけもらいました。

(松井教育長)

冊子になっていなかったのですね。

(真砂次長兼生涯学習課長)

今年はすべて写真に写っているみなさんにお届けするかたちで作成をいたしました。